太田川学園 創立50周年記念誌

社会福祉法人 三矢会

太田川学園創立五十周年記念誌

社会福祉法人 三矢会

感謝と希望と

社会福祉法人三矢会
理事長　内　田　健　二

精神薄弱児施設太田川学園が，園児14人，職員10人でスタートしたのは，昭和43年4月1日のことです。それから50年。太田川学園は，13施設，利用者340人余，職員200人余。随分大きくなりました。

これまでの半世紀を振り返ると，そこにあるのは，「感謝」です。

祇園町の民協のメンバーが精神薄弱児施設の設置を言い出さなかったら，安佐・山県・高田3郡の町村会を精神薄弱児施設開設の方向でまとめる人がいなかったら，沼田町が土地を寄附してくださらなかったら，3郡の皆さんと広島県が建設資金を捻出してくださらなかったら，今の太田川学園はありません。

経験の浅い職員たちに，同業他施設の皆さんが手ほどきをしてくださらなかったら，先輩職員が，がむしゃらに働き続ける日々がなかったら，地元の皆さんが，やんちゃをする利用者の皆さんを温かく受け入れてくださらなかったら，太田川学園の，おそらく個性的な仕事の流儀は，確立していないでしょう。

歴代の理事長を始め，役員の皆さんが，ひたすら前に向かって進んでいこうとする気概を持ち合わせていなかったら，そして，何よりも保護者の皆さんの絶大な御協力がなかったら，さらに，行政の大変好意的な後押しがなかったら，新規事業の展開はおろか，事業の維持さえ難しかったはずです。

太田川学園の後ろに，広い背景があって，いろいろな人が，いろいろなところで，苦労しながら，いろいろな動きをしてくれたから今があることを，私たちは知らなければなりません。

今後を展望したら，そこには何があるでしょう。それは「希望」だ，と私は思います。

急速に進む少子高齢化，人口減少とそれに伴う経済・産業活動の縮小，入所施設をこれ以上増やさないとの国の方針，報酬改定を巡り支出抑制を根強く訴える声，年々深刻になる人材確保の難しさ。先行き不透明なこれからの時代，将来に対する漠然とした不安を感じさせられます。

こうした不安を取り除くためには，きちんとした情報を得て，不安の正体を解明し，少し先の目標を達成するための道筋を設定して，具体的な行動に移す，のが一番だといいます。私もそう思います。

「不安は希望の裏返し」です。希望の中身がはっきりすると，不安の中身もはっきりして，対処可能になります。希望に向かって進む過程で，不安は解消されます。私は，利用者の皆さんが幸せな毎日を送れること，職員が安心して働けることを念じながら，そういう経営をしていきたいと考えています。

表紙の言葉（編集後記に代えて）

理事長　椎木先生，記念誌の表紙の題字を書いていただけませんか。

椎　木　何かテーマを与えてもらえるとうれしいのですが。

理事長　例えば，論語から言葉を選ぶと，どうしても説教臭くなりますよね。

椎　木　私は，仏語（ぶつご）をよく引用しますが，お宅は，宗教とは関わりがないので，避けた方がいいかもしれませんね。

理事長　これまでの50年を振り返ると，そこにあるのは「感謝」，これからの50年を展望すると，そこにあるのは「希望」だと思うのです。しかし，こういうのは，平凡というか，陳腐というか，テーマとしては，どうなんでしょうね。

椎　木　いやいや。ありきたりであっても，すたれていない言葉の持つ力は，とても大きいですよ。私は，「希望」を書いてみようと思います。

そういう訳で，表紙の題字は，「希望」になりました。椎木剛（しいのき・つよし）さんは，昭和23年生まれ。前衛書家として著名で，「心書倶楽部」代表を務める傍ら，平成28年から当学園で，「書は楽しい」を主宰しておられます。

平成30年4月28日から同年6月10日まで泉美術館（広島市西区）で開かれた「ハナサクモリの芸術家たち」は，大変好評で，創立50周年に華を添えることとなりましたが，その展示作品には，「書は楽しい」から生まれたものも取り上げられています。

この記念誌の作成に当たっては，実に多くの皆様に御協力いただきました。誌面をお借りして，厚くお礼を申し上げます。

（内田健二）

太田川学園創立50周年記念誌

平成30年7月22日　発行

編　　集　太田川学園創立50周年記念事業実行委員会

発 行 所　社会福祉法人三矢会
〒734-0014　広島市安佐南区伴東三丁目16-1
電話 082-848-0130　ファクシミリ 082-848-0810
電子メール　sanshikai@otagawagakuen.or.jp

印刷・製本　可部印刷株式会社